

付録

各種参考資料

◎石材店の災害対応マニュアル（原案）

※以下を参考に、皆さんのお店にあったマニュアルを作成してください。

【事前に準備し、決めておくこと】

- 1、緊急連絡網の整備
会社と自宅の電話・FAXほか、携帯電話、Eメールなどを緊急連絡先として決めておく。地震直後は電話が繋がりにくいいため、「災害用伝言ダイヤル171」などでお互いの安否を確認する方法もある（下記参照）。一方で、携帯電話のメールはつながりやすいことも覚えておく。
- 2、「被害報告書」、「修復依頼書」、「修復作業料金表」の作成
94～101頁参照。
- 3、全体の指揮をとる代理人の指名
代表者が負傷や死亡、出張中などの理由で現場で指揮を取れないことを想定して、事前にその役目を代行する人物を決めておく。

安否確認手段の例



災害用伝言ダイヤル【171】

電話機から音声の伝言を録音・再生するサービス



災害用ブロードバンド伝言板【Web171】

インターネット上で、安否情報を登録・確認するサービス



携帯電話を利用した災害用伝言板サービス（携帯電話各社提供）

携帯電話で安否情報を登録・確認するサービス

※「毎月1日」などの体験利用が可能な日に、会社や家族で試しに使って慣れておく

※『月刊石材』2009年12月号（vol.351）
巻頭特集「静岡（駿河湾）地震に学ぶ石材店
に求められる危機管理」より

4、予行演習

災害発生時の連絡手段や基本的な行動指針などについて事前に話し合い、避難訓練や予行演習をしておく。

※顧客情報の管理はパソコンだけではなく、紙資料（印刷物）でも保存しておく（電気・通信機能の障害やOA機器の損傷に備えて）。

【災害発生後にすべきこと】

1、被害状況の把握

代表者であれば、まず社員や家族の安否を確認。震源地が沿岸の場合は、津波情報に注意する。

次に建物（自宅、店舗、工場など）やライフライン（水道・電気・ガスなど）、通信手段などにどの程度の被害があったかを確認する。交通機関や道路が被害を受けて出社できないケースもあるので、出社できる人数に応じて周辺部の被害情報の収集（写真撮影を含む）や店舗内の後片付け、電話対応など役割分担を決定する。その被害状況を書面または口頭で寺院や施主に伝え、必要があれば霊園や寺院内に修復依頼の相談窓口を設置する。

修復を頼まれた場合、「修復作業料金表」の該当金額ま

たはおよその代金を知らせた上で、「修復依頼書」に必要な事項を記入し、後日、現場を見てから対応する旨伝える（余震が長引いたり、修復依頼が殺到した場合、対応が遅れることも前もって伝えておくとうい）。

施主の住まいが遠方で、特に被害がなかった場合、その旨をハガキに書いて報告してあげると喜ばれるだろう。

2、緊急処置

被害を受けた中で、崩落しかけた石塀や石橋、転倒しそうな墓石や記念碑など近寄ると危険な場所があれば、そこにロープを張るなどして立ち入り禁止にする。応急処置が必要な場合は、余震がある程度おさまってから安全性を確保する。ただし、隣の墓石が倒れて被害を受けたものなど、後で責任問題に発展しそうなものは、そのまま状況証拠として残しておく（あるいは、当事者の了解を得て、写真を撮ってから安全な状態に戻す）。

3、被害情報の整理

全体の被害状況がある程度把握できたら、その緊急性や被害状況などに応じて優先順位を決定し、修復計画を立てる。その際、重機や資材の運搬経路の確保も検討する。

小規模の墓地で複数の石材店が出入りしているところは、修復作業で現場が混乱しないように事前に各社と打合せしておくことも必要となろう。人手が足りない場合は、所属団体や組合、仕事仲間に相談し、人数や期間、費用など必要な条件を伝えた上で応援を要請する。

4、修復作業の開始

修復に際しては、とりあえず応急処置だけで良いのか、本格的な耐震施工で直すのか、施主がどの程度の修復を望んでいるのか十分確認した上で、その作業内容と社内のバックアップ体制などを総合的に判断しておくよう。

【被害報告書】のつくり方

墓地使用者や檀信徒の中には、お墓の安否を寺院などに直接問い合わせるケースもある。その時、墓地全体の被害状況が把握できるものがあれば、その後の対応や案内がスムーズになる。可能であれば寺院の了解を得た上で、それを石材店が用意することも必要となろう。

お墓の被害状況を撮影した写真も必要である。

「被害報告書」の作成に当たっては、以下の要件が記載されていることが望ましい(96頁参照)。

- ① 調査日時
- ② 担当者名
- ③ 寺院(霊園)の名称
- ④ 区画、墓地番号
- ⑤ 建立者名(無名の際は、一番最後に刻まれた戒名など)
- ⑥ 被害状況の判定

墓所や墓石がどの程度の被害を受けたかについて、その被害の度合いに応じて(無事だったものも含めて)ランク別に分けて報告する。自損か他損か、すぐ修復が必要か(緊急性)、修復方法について施主と相談する必要があるか、修復にはどれくらいの人手や重機が必要か—といったことがポイントとなる。

⑦ 所見

前項について、「さお石が転倒」「納骨室が露出」「中台が回転(ズレ)」「外柵に亀裂」など具体的な被害状況を説明する(損傷した中には以前の地震によるものなど「元々あったものもあるので、慎重に判定する」)。

⑧ 写真番号

デジタルカメラ等で撮影した墓石の被害状況がわかる写真データの番号を記入する。

以上の内容を一覧表にまとめた上で、被害状況が判る写真数点（区画全体と被害の拡大部分など）を添えて報告し、自社で修復依頼を受けた場合の料金表（規定外の工事については見積り対応とする）などを一緒に渡しておくの良いだろう。

【修復依頼書】（ひん）

地震後の電話相談や修復現場での対応を想定し、事前に修復依頼書を常備しておかなければならないが、その書類を作成する場合もおよそ以下の要件を満たす必要がある（97頁参照）。100・101頁は実際に使用された書式例。

- ① 受付日時
- ② 依頼者名
- ③ 連絡先（自宅住所・電話番号、携帯電話番号など）
- ④ 寺院（霊園）の名称
- ⑤ 区画、墓地番号
- ⑥ 建立者名（前述の被害報告書と同様、名前がない場合は、最後に刻まれた戒名）

⑦ 施工業者（自社か他社か。自社の場合、その施工内容＝墓石全体か一部だけか）

⑧ 石種名（墓石本体と外柵）

現場で実物を確認できれば問題ないが、それができない場合は、墓石の色や特徴などを聞いておく和良好的（墓石が転倒した場合、それがどこの墓石かを特定するため）。

⑨ 被害状況と所見

前述のとおり、自損か他損か、その被害がどの程度深刻かが判るように具体的に記載する。

⑩ 見積りの必要の有無

比較的小さな被害で、事前に案内した料金表のとおり修復できそうな場合、その見積書の作成と依頼者の意志確認だけで時間と手間を要するので、できるだけ省略する。

⑪ 担当者名

以上の修復依頼について、その場所や修復内容（どれくらいの手や重機が必要か）を整理して検討するが、どの現場を優先するか判断は各社の立場や方針によって分かれるところである。依頼者との関係（寺院からの一括依頼か個別依頼か。自社客か否かなど…）、有償か無料サービスか、といったことも含めて総合的に判断する。

被害報告書（案）

①調査日時	年 月 日
②担当者名	
③寺院（霊園）の名称	
④区画、墓地番号	
⑤建立者名	
⑥被害状況の判定	
⑦所見	
⑧写真番号	

社名

TEL：

FAX：

修復依頼書（案）

①受付日時	年 月 日
②依頼者名	
③連絡先	住所
	TEL
	携帯TEL
④寺院（霊園）の名称	
⑤区画、墓地番号	
⑥建立者名	
⑦施工業者名	
⑧石種名（色など）	本体
	外柵
⑨被害状況と所見	
⑩見積り	必要 ・ 不要
⑪担当者名	

社名
TEL：
FAX：

平成 21 年 8 月 駿河湾沖地震における墓石復旧作業 基本単価

【石をずらして位置を元に戻すだけの場合】

	和型 8 寸角 ,9 寸角	和型 10 寸角	洋型
棹のみ	¥ 3,000	¥ 5,000	¥ 5,000
棹から上台まで (上から 2 段目まで)	¥ 6,000	¥ 10,000	¥ 12,000
棹から中台まで (上から 3 段目まで)	¥ 10,000	¥ 20,000	その都度 見積もり

※メジをいれる場合は、その都度見積もりさせていただきます。

【接着剤を使って組み直す場合】

	和型 8 寸角 ,9 寸角	和型 10 寸角	洋型
棹のみ	¥ 5,000	¥ 7,000	¥ 7,000
棹から上台まで (上から 2 段目まで)	¥ 20,000	¥ 22,000	¥ 25,000
棹から中台まで (上から 3 段目まで)	¥ 30,000	¥ 32,000	その都度 見積もり

！石が欠けている場合の修理、
その他、上記以外の作業につきましては、
その都度見積もりさせていただきます。

平成23年3月東日本大震災における墓石復旧作業単価

平成23年5月発行

	和型・洋型	五輪塔	施工内容	備考
棹石の復旧 (五輪塔の場合は棹石まで)	25,000 ～	50,000 ～	ボンド接着	機械使用
棹石～上台までの復旧	50,000 ～	70,000 ～	ボンド接着	機械使用
棹石～中台までの復旧	85,000 ～	100,000 ～	ボンド接着	機械使用
棹石～芝台までの復旧	120,000 ～	150,000 ～	ボンド接着	機械使用
棹が倒れている	30,000 ～	80,000 ～	ボンド接着	機械使用
古い石塔が崩れている	35,000 ～	55,000 ～	ボンド接着	機械使用
花立 水鉢が壊れている			要見積り	
土台(外柵)が開いている			要見積り	
土台(外柵)が壊れている			要見積り	
墓前灯籠が倒れてる(1本)	20,000 ～		ボンド接着	
お地藏様が倒れてる	10,000 ～		ボンド接着	
墓誌が倒れている	15,000 ～		ボンド接着	

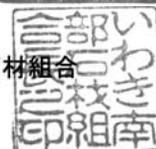
※スリン、蓮華付の場合は+15000円の追加料金がかかります。

- ①墓所の状況、機械の搬入時の条件により別途料金が、かかる場合があります。
- ②石が欠けている場合の修理につきましては、その都度見積りさせていただきます。
金具をつけて組み直す場合はその都度見積りさせていただきます。
- ③その他の人力等による修復につきましては、上記の単価に当てはまるものでは、ございません。

いわき石材工業組合



いわき市南部石材組合



寺院		受付日 平成 年 月 日			
名前		住所			
		TEL			
墓地の場所と特徴					
区画番号					
本堂の		南・北・東・西・裏		(○で囲む)	
敷地外の墓地		その他			
その他詳細					
墓地の状況					
サオがずれている		上台がずれている		中台がずれている	
花立・水鉢がずれている		中台が開いている		芝台が開いている	
サオが倒れている		石塔が崩れている		花立・水鉢が崩れている	
土台(外柵)が開いている		土台(外柵)が壊れている		その他	
希望内容		<u>その他詳細</u>			
戻すのみ					
接着・目地まで					

平成23年 東北地方太平洋沖地震緊急対応策

A-1号(対応表)

■寺院・共同墓地・霊園名と工事区分

■対応日

記載者:

平成 23年 月 日 印

■名前

■住所

■TEL

■墓地の場所と特徴

区画番号・墓地番号

本堂・墓地の南・北・東・西・前・裏側 (○で囲む)

その他

■その他の詳細

■墓地の状況

(石種)石碑:

五輪塔:

外柵:

サオがずれている

(セメント施工・ボンド施工)

サオが倒れてる

(墓域内・前・右・左・後)

サオが壊れている

(加工必要・加工可能・交換)

スリン・蓮華がずれている

(セメント施工・ボンド施工)

スリン・蓮華が落ちている

(墓域内・前・右・左・後)

スリン・蓮華が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

上台がずれている

(セメント施工・ボンド施工)

上台が落ちている

(墓域内・前・右・左・後)

上台が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

中台がずれている

(パッカ式・2枚・四つ合せ)

中台が落ちている

(墓域内・前・右・左・後)

中台が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

芝台がずれている

(1枚・2枚合わせ・四つ合わせ)

芝台が落ちている

(墓域内・前・右・左・後)

芝台が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

墓誌がずれている

(ゲタ・台)

墓誌が落ちている

(墓域内・前・右・左・後)

墓誌が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

五輪塔がずれている

(空輪・笠・玉・サオ・上台・中台)

五輪塔が倒れてる

(墓域内・前・右・左・後)

五輪塔が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

塔婆立がずれている

(笠・柱・受)

塔婆立が倒れてる

(墓域内・前・右・左・後)

塔婆立が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

灯籠がずれている

(置灯籠・墓前灯籠・庭灯籠)

灯籠が倒れてる

(墓域内・前・右・左・後)

灯籠が壊れてる

(加工必要・加工可能・交換)

花立・水鉢・香炉のずれ

(角物・加工物)

花立・水鉢・香炉の壊れ

(加工可能・交換)

旧墓石のずれ

本
(サオ・上台・中台・芝台)

外柵が開いている

(腰石・コーピン・羽目)

外柵が壊れている

(基礎・地盤沈下・近隣から)

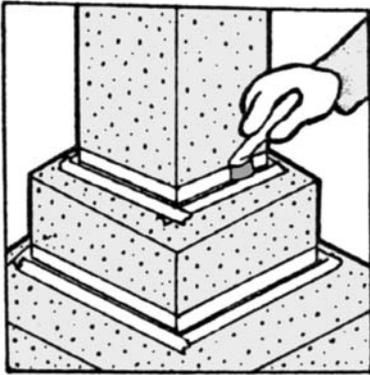
その他

希望内容

戻すのみ

接着・目地まで

その他(希望納期など)



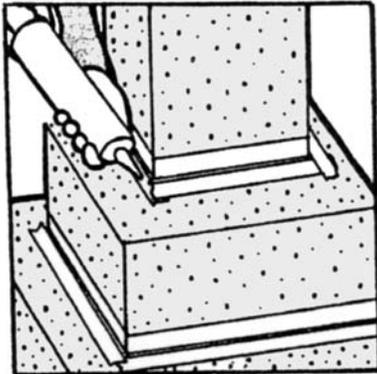
◎コーキングの施工手順

①下地処理

目地部分のホコリ・水・油・泥などの汚れを布及びワイヤーブラシなどで除去し、コーキング面をきれいにして下さい。

②マスキング

目地部の仕上げを美しくするため、シーリング用マスキングテープを貼ります。

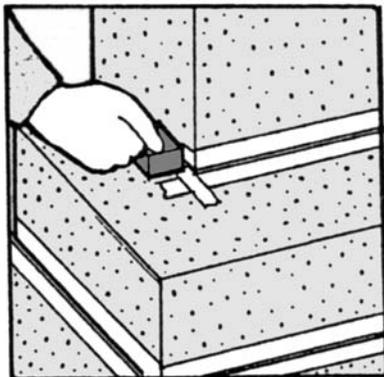


③コーキング

墓石用接着剤を目地部に充填する際は、ノズルを目地幅よりやや小さめに切断し、市販のカートリッジガンにセットして作業して下さい。

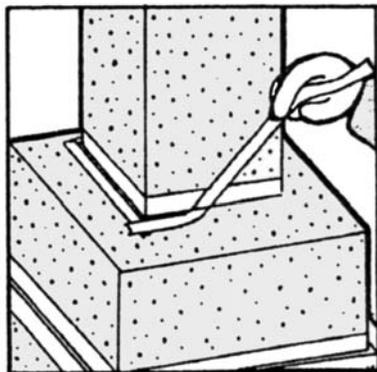
その際ノズル先端を目地に当て充填を行なうときれいに仕上がります。

また、より良い接着力を得たい場合は、接着剤を塗布する前にシールプライマーをハケで均一に塗布し、30分～60分乾燥させた後、コーキング作業を行なって下さい。



④仕上げ作業

墓石用接着剤は硬化が早いので、充填後は出来る限り速やかに、専用の仕上げバッカー（ヘラなど）で表面を滑らかに仕上げして下さい。



⑤マスキング除去

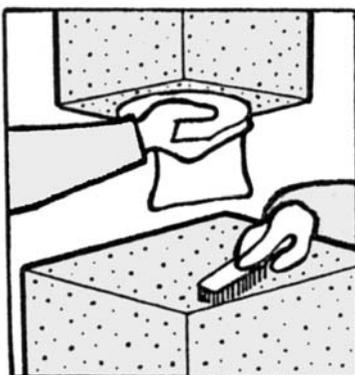
仕上げ作業が完了したら、速やかにマスキングテープを剥がして下さい。硬化してくると、テープがきれいに剥がれずにコーキング面の仕上がりが悪くなります。

以上の要領にて、施工手順に基づき正しく施工して下さい。
なお、墓誌及び外柵なども同じ要領にて施工して下さい。

墓石用

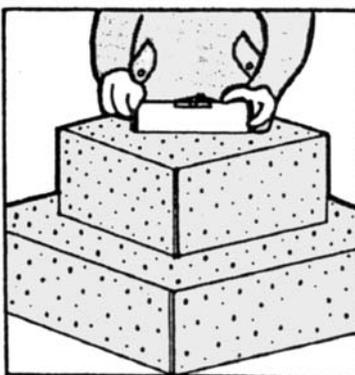
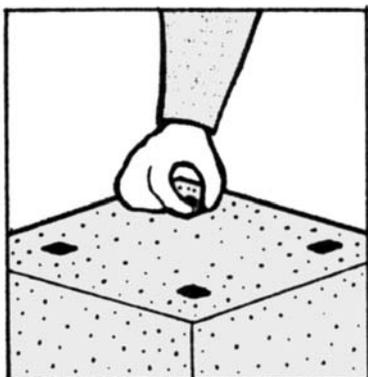
接着剤による 接合部施工 マニュアル

(資料提供：ボンド商事(株))



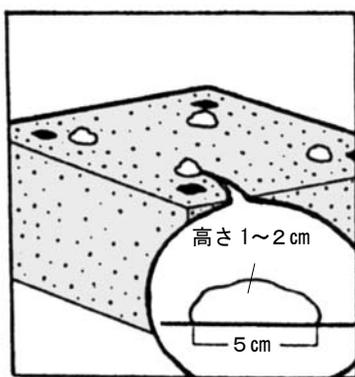
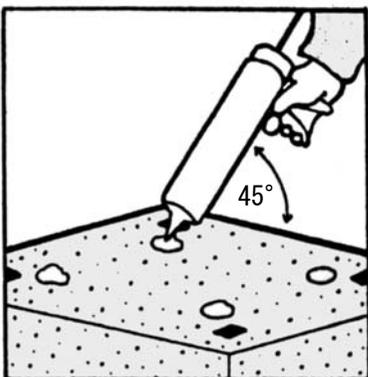
①下地処理

接着する部分のホコリ・水・油・泥などの汚れを布及びワイヤーブラシなどで除去して、接着面をきれいにして下さい。



②レベル調整

重ねる石材の四隅に目地取りを兼ねたゴムパッキンを置いて水平を取って下さい(1mm・2mm・3mm厚の3種類があります)。



③接合部接着

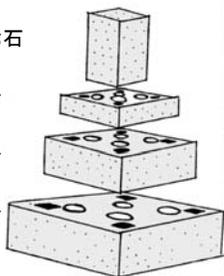
接着部の墓石用接着剤塗布量は、円形に塗布し直径が5 cm前後・高さ1 cm～2 cmになる様、多めに塗布して下さい。

さお石

上台

中台

芝台



④各部材の接着

芝台と中台、中台と上台、上台とさお石と順次墓石用接着剤を塗布し、水平を取りながら各々の石材を重ねて下さい。

その際に、塗布した接着剤の表面が乾燥しないように貼り合せて下さい。

なお、接合部へはステンレス製のダボを挿入して強度を増して下さい。また、より良い接着力を得たい場合は、接着剤を塗布する前にシープライマーをハケで均一に塗布し、30分～60分乾燥させた後、墓石用接着剤をご使用下さい。

◎非常用持出品チェックシート

避難するときにはまず持ち出すべきものです。非常用持出袋に入れ、玄関など持ち出しやすい場所に置いておきましょう

貴重品類		
10円玉は公衆電話用に。通帳、カード、健康保険証、運転免許証などは番号を控えたメモかコピーを用意しておくといでしょう。	現金 10円玉	
	預金通帳	
	印鑑	
	保険証	
	免許証	
避難用具		
懐中電灯はできれば一人に一つ用意したいもの。	懐中電灯	
	携帯ラジオ	
	予備の乾電池	
	ヘルメット・防災ずきん	
生活用品		
避難所生活に最低限必要なものです。赤ちゃんやお年寄り、障害者がある場合など考慮して揃えましょう。	厚手の手袋	
	毛布	
	缶切り	
	ライター・マッチ	
	ナイフ	
	携帯用トイレ	
救急用具		
救急箱には絆創膏・消毒液など。その他ビタミン剤など日頃使っているサプリメントなどもあるといでしょう。	救急箱	
	処方箋の控え	
	胃腸薬・便秘薬・持病の薬	
	生理用品	
非常食品		
最低3日分は用意しましょう。そのまま食べられるものが便利です。	乾パン	
	缶詰	
	栄養補助食品	
	アメ・チョコレート	
	飲料水	
衣料品		
衣類は動きやすいものを選びましょう。セーターなどの防寒具も寒い季節には役立ちます	下着・靴下	
	長袖・長ズボン	
	防寒用ジャケット・雨具	
その他		
携帯用カイロ		

◎備蓄品チェックシート

備蓄品は、災害復旧までの数日間を自給自足できるように準備しておくものです。災害後に取りに行けるよう、倉庫や車のトランクなどに分けて備蓄しておく便利です。

食料品		
レトルト食品（ごはん・おかゆなど）・アルファ米		
インスタントラーメン・カップみそ汁		
飲料水	1日3ℓが目安です。3日分は備えましょう。	
生活用品		
給水用ポリタンク	ポリタンクには日頃から水道水をためておく災害時、生活用水に使えて便利です。	
カセットコンロ		
ティッシュペーパー・ウェットティッシュ	ウェットティッシュは入浴できない災害時には体が拭けるなど重宝します。	
ラップフィルム	食器の上に敷けば洗う必要もありません。	
紙皿・紙コップ・割り箸		
簡易トイレ		
水のいらないシャンプー		
ビニール袋	雨具や敷物、簡易トイレとしても使用可能。プライバシー保護のため透けないものを。	
ロープ	救助活動の際に使えます。	
工具セット		
ほうきとちりとり	ガラスや倒壊物の除去に役立ちます。	
ランタン		
長靴	瓦礫などから足を保護するために。	

◎常時携行品チェックシート

外出先で被災する場合もあるので、必要なものは常に身に付けておきたいものです。コンパクトで軽いものが理想的です。

懐中電灯		
携帯ラジオ		
笛・ホイッスル	閉じ込められたときなど、場所を知らせます。	
避難カード		
避難用マップ		

※消防庁 防災マニュアル ー震災対策啓発資料ーより

おわりに　　～ 信仰心の向上にも努めよう

「2年前の地震で、お寺の庭の石灯籠が崩れ、その下で草取り作業をしていた66歳の女性が亡くなった」

実話ではないと思います。ただ、2007年3月25日に能登半島で発生した地震の際に、自宅に立っていた石灯籠が倒れ、女性が下敷きになり亡くなっています。この事故については、「記憶の方も多いことでしょう」。

冒頭の話は、天童荒太著『静人日記』（文藝春秋、2009年）にある一節です。本書は天童氏の直木賞受賞作品『悼む人』（文藝春秋、2008年）の主人公である坂築静人が書いていた日記を通し、『悼む人』の作品中における静人の行動やそのときの思いを綴ったものです（わかりづらいと思うので、興味のある方は、『悼む人』『静人日記』の順でお読みください）。

「灯籠の下敷きになって亡くなったのは、本当につらいけれど、熱心な檀家さんだったから、仏様がおそばに置きたくなったのかもしれないと、みんなで話しているという」

こう日記は続きます。

大きな地震が来るたびに、墓石をはじめ石造物の倒壊による人的被害を心配しますが、これまでそうした報道はほとんどないと思います。唯一知る例が、先述の能登半島地震における石灯籠の事故です。

地震大国日本において、石造物倒壊による人的被害が皆無に等しいということは、本当に幸いなことです。しかし、お彼岸やお盆のときに大地震が発生する可能性がないとはいえません。常日頃から、地震対策をはじめ、災害対策についての検討・準備はしておく必要があります。

また万が一、墓地で人的被害が発生したときです。「本当につらいけれど、熱心な檀家さんだったから、仏様がおそばに置きたくなつたのかもしれない」などと、話ができるかどうかです。

これは信仰の問題です。信仰とは、無垢な心で神仏を信頼し崇拝することです（『岩波仏教辞典』岩波書店）。災害対策はもちろんのこと、日頃から信仰心の向上にも努めていくことも大切なことでしょう。

なお本書発刊に当たり、これまで『月刊石材』の地震関連の取材にご協力にいただきました石材店・関連業者の皆さま、また、(社)全日本墓園協会・主任研究員の横田睦先生、虎の門法律事務所・弁護士の小松初男先生、そのほか本書発刊にご協力いただきました皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

最後に、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々には心から哀悼の意を表します。また、ご遺族の方々、被害を受けられた方々に一日も早く平穏な日々が戻ることをお祈り申し上げます。

株式会社石文社 中江 庸

「お墓」と「地震」 知っておくべき 災害時の基礎知識

2011年11月14日 初版発行

編集兼発行者 中江 庸

発行所 株式会社石文社

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-3-6川島ビル401

<http://www.ishicoro.net>

電話 03-5256-0740

印刷 平河工業社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁（本のページ順序の間違いや抜け落ち）の場合はお取替えいたします。

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

©SEKIBUNSHA

ISBN978-4-9901846-5-0 C0030 ¥1429E Printed in Japan